

後期中等教育における職業教育は移行に対して有効か？

Cristina Iannelli and David Raffe (2007) "Vocational Upper-Secondary Education and the Transition from School," *European Sociological Review*, 23: 49-63.

中央大学大学院 敦賀 亮太

本論文は、後期中等教育における職業教育が、その後の進路に与える影響を移行システムの国際比較の観点から考察するものである。これまで移行システムの比較研究については労働市場内の特徴 (Marsden 1986) や教育システム内の特徴 (Allmendinger 1989) など、さまざまな基準から進められてきているが、本論文は学校を基盤とした職業教育に焦点を当てているため、教育と労働市場とのリンケージと国家の関与の度合いを軸にして分析を進めている。その際、労働市場とのリンケージが強く職業資格に強い価値を置く「Employment-logic」と、リンケージが弱く潜在能力の養成に価値を置く「Education-logic」の2つの理念型に分類して論を展開している。分析の対象となっている国はオランダ・アイルランド・スウェーデン・スコットランドの4カ国であるが、そのうち、オランダが「Employment-logic」の国、スコットランドが「Education-logic」の典型的なモデルとして扱われており、残りのアイルランドとスウェーデンがその中間の国として位置づけられている。

本論文の問いは大きくいて2つに集約される。第一の問いは、「後期中等教育における職業教育 (Vocational upper-secondary education, 以下「US-Voc.」とする) は、前期中等教育 (Lower-secondary education, 以下「LS」)、もしくは教養教育 (Academic upper-secondary education, 以下「US-Ac.」) と比べて有効か？」というものである。第二の問いは「職業効果 (Vocational Effect) は国によって異なるのか？」というものである。

第二の問いについてはさらに5つの仮説に分かれている。

- ①Employment-logic は、後期中等教育における職業/教養教育修了生の多様性と結びついている。
- ②US-Voc. 修了生は、LS, US-Ac. 修了生に比べ職を得る機会が多い。
- ③US-Voc. 修了生は、LS, US-Ac. 修了生に比べ職業上

の地位が高い。

- ④US-Voc. を修了した者は、LS, US-Ac. 修了生に比べ徒弟制度へは移行しにくい。
- ⑤US-Voc. と US-Ac. の修了生の進路先に違いが少ないことは、教育段階の位置によって説明が可能である。

以上の問いによって分析が進められる。

分析には Comparative Analysis of Transition from Education to Work in Europe (Smyth *et al.*, 2001) のプロジェクトによって収集された質問紙データを用いている。アイルランド・オランダは1995～1996年、スコットランドは1993～1994年に中等教育を修了した者を対象者としており、質問紙は修了後の10～18カ月後に収集している。スウェーデンは対象者の修了年が1993～96年となっているが、これは男子に徴兵制が課されているため、移行のパターンにばらつきが生じているためである。

分析の結果を端的に示したのが表1である。

まず第一の問いである職業教育の効果であるが、まず教育継続については、男性はすべての国でUS-Voc. はLSよりも教育継続につながっている一方、女性ではスコットランド以外効果は見られない。またUS-Ac. と比べると、教育継続につながっていないことがわかる。次に失業への効果であるが、US-Voc. はLSに比べると失業対策にはなっているが、US-Ac. との違いはみられない。また、徒弟制度への移行は国によって異なっている。最後に、職位については、US-Voc. はLSに比べ正の効果を持つが、US-Ac. に比べ男性は負の効果を持ち、女性は国ごとに異なるという結果となっている。これらをまとめると、US-Voc. の効果はLSと比べると相対的に正の効果をもつが、US-Ac. と比べると複雑である。具体的には、教育継続、男性の職位については負の効果を持ち、失業対策に正の効果があったのはアイルランドのみという結果が出ている。

表1

		アイルランド	オランダ	スコットランド	スウェーデン
男性	教育継続	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.
	vs 雇用	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.
	雇用	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.
	vs 失業	US Ac.=US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.
	徒弟	LS=US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	—
	vs 雇用	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	—
女性	教育継続	LS=US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.
	vs 雇用	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.
	雇用	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.
	vs 失業	US Ac.=US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.
	徒弟	—	LS<US Voc.	LS<US Voc.	—
	vs 雇用	—	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	—
	職位	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.	LS<US Voc.
		US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.	US Ac.>US Voc.

出典：Iannelli and Raffae (2007, p. 61)

注：スウェーデンは徒弟制がないため、またアイルランドの女性はサンプルが少ないため除外している。

次に、第二の問いである職業効果の国ごとの違いについてあるが、仮説①④⑤については支持される結果となった。具体的には、仮説①はオランダが次の教育段階に進む者と職に就く者が明確に分かれるのに対して、スコットランドはその差異が小さく、アイルランド・スウェーデンはその間ぐらいに位置していた。仮説④に関しては、US-Voc. から徒弟制度に移行する者はいずれの国でも相対的に少ないことがわかった。仮説⑤に関しては、Education-logic の影響下では、職業教育は教育年数の反映として、高い職位を得ているという見方が可能である。

その一方で、仮説②と③については棄却される結果となった。仮説②の US-Voc. の失業への効果は、LS と比較すると影響が強いという結果が出ているものの、US-Ac. との比較でははっきりとした効果を見いだすことはできなかった。また職位については男性のみ効果があり、女性については効果がないということが明らかになった。

最後に、日本での状況を踏まえた上で一点述べておきたい。それは、日本が本論文の Employment/Education-logic ではどこに位置づくのかという点である。本論文で提示された上記の分類は大変示唆的であるが、日本へ適用した場合、多少注意が必要なよう

にも思われる。というのも、日本の場合労働市場とのリンケージは相対的に強いものであるが、教育の場においては職業資格よりも潜在能力が重視される傾向にあるからである (Rosenbaum and Kariya 1989)。つまり日本の場合は、Employment/Education-logic が混じり合った状態で移行システムが存在している。その場合この分類ではどこに位置づけられるのだろうか。日本においても各国との比較調査が待たれるところである。

参考文献

- Allmendinger, Jutta (1989) "Educational systems and labour market outcomes" *European Sociological Review*, 5(3): 231-250.
- Marsden, David (1986) *The End of Economic Man? Wheatsheaf*.
- Rosenbaum, James and Takehiko Kariya (1989) "From High School to Work," *American Journal of Sociology*, 94(6): 1334-1365.
- Smyth, Emer et al. (2001) *A Comparative Analysis of Transitions from Education to Work in Europe (CATEWE): Final Report*, ESRI. (<http://www.mzes.uni-mannheim.de/projekte/catewe/>)

つるが・りょうた 中央大学大学院文学研究科教育学専攻
博士前期課程。教育社会学専攻。